

学術委員会企画テーブルセミナー

テーマ3 女性小児歯科医委員会企画

企画責任者：高野 博子

テーブル1

生涯小児歯科医であるために ―より専門性を究めよう！―

目的：女性小児歯科医委員会では、20～30歳代の女性小児歯科医が臨床・研究・教育の場で活躍しているにも関わらず、その後年を経る毎に現役で活躍し続けることが難しい学会の現状を話し合い、生涯にわたり小児歯科医として仕事を続け、能力を発揮していけるために、どのようなサポートができるかを、学会へ提言していきたいと考えています。より多くの会員の方々の参加をお待ちしております。

演者 1) 講演 (各20分)

1. 女性小児歯科学会会員の現状
日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座 下村-黒木 淳子 先生
2. 日本医師会女性医師支援センターや日本女性薬剤師会の取り組みについて
福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野 馬場 篤子 先生
3. 女性小児歯科医委員会から小児歯科学会への提言
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野 仲野 道代 先生

2) グループ討議 (30分)

テーブル2 親の気持ちのわかる歯科医になろう

目的：今、あらゆる場面で子育て機能の低下が危惧されています。そこで、私たち女性小児歯科医委員会では、子どもの健やかな育ちを支援するためには、育ちの基盤である家庭、特に親への支援が重要と考えております。

社会不安が広がる中、懸命に子育てをしている親の気持ちに寄り添い、子どもの成長を共に喜ぶ視点に立ち、発達段階に応じた支援の方法を提案し、社会に求められる小児歯科医を目指し参加者と討議したいと思います。

演者 1) 講演 (各20分)

1. 乳幼児期からのスタート
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野 長谷川 大子 先生
2. もう一人の育ての親
北海道医療大学口腔構造・機能発育学系小児歯科学講座・庄内こどもの歯科
庄内 喜久子 先生
3. 思春期を考える
ルミエール小児歯科 吉田 敦子 先生

2) グループ討議 (30分)

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル1 生涯小児歯科医であるために 一より専門性を究めよう！一

1. 女性小児歯科学会会員の現状

日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座

下村一黒木淳子



■ 略歴

平成9年3月 新潟大学歯学部歯学科卒業
 平成13年3月 新潟大学大学院歯学研究科修了
 平成13年4月 新潟大学歯学部附属病院医員採用
 平成16年4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院小児歯科講師就任
 平成18年4月 日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座講師就任
 平成20年4月 日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座准教授就任

女性小児歯科医は、日本小児歯科学会会員の約40%を占めるにも関わらず、未だに現役で生涯活躍し続けることが難しい現実があります。そこで女性小児歯科医がその能力を仕事上で発揮し続けていけるために、学会としてどのようなサポートが必要かを模索する必要があると考えられます。今回は女性小児歯科医の現状について報告し、いくつか問題提起させて頂きたいと思います。

女性小児歯科医が専門医を取得している割合は、全体の約50%と男性小児歯科医とほぼ同じですが、専門医指導医となると、約25%と男女差が大きくなります。また学会理事の割合も約10%に留まっており、女性会員の意見を反映させることが難しい現状となっています。これは、昨年女性小児歯科医を対象に行ったアンケート調査結果（本学会ポスター発表、日本小児歯科学会に属する女性歯科医への本音トークアンケート調査結果、第1報・第2報参照）からもわかるように、30歳代以降、年を経る毎に育児・介護等、諸々の家庭の事情のため、仕事の継続が難しくなる事が関係しており、またそれに対する支援体制の不備によるところが大きいと考えられます。またアンケート調査結果からは、専門医を取得・更新する事のメリットが少ない、との意見も多く認められたことから、今後は専門医の認知度向上、標榜医との違いのアピール、専門医による診療に対する評価方法の改善等がより強く求められていると思われます。また、学会やセミナーへの参加が比較的容易な関東近郊に比べ、地方特に歯学部のない県では専門医の割合がかなり低い事から、日帰りの参加が可能となるような近郊でのセミナー開催や、セミナーでの託児所設置等の実現も期待されます。

女性小児歯科医が生涯現場で働き続けることが出来るように、また専門医を取得・更新していくためのモチベーションを持ち続けられるように、この機会に男女問わず多くの意見を伺えたらと考えています。

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル1 生涯小児歯科医であるために ーより専門性を究めよう！ー

2. 日本医師会女性医師支援センターや日本女性薬剤師会の取り組みについて

福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野

馬場 篤子



■ 略歴

平成2年3月 福岡歯科大学歯学部歯学科卒業
平成6年3月 福岡歯科大学大学院歯学研究科
歯学専攻博士課程（小児歯科学）修了
平成6年4月 福岡歯科大学附属病院医員
平成6年10月 福岡歯科大学助手
平成17年4月 福岡歯科大学講師 現在に至る

厚生労働省が発表した平成22年度医師・歯科医・薬剤師調査の概況において、総医師数295,049名中、女性医師数は55,897名（比率:18.9%）であり、この数値は年々増加傾向を示し、どの職種の女性達もこの仕事を一生続けたいと思いつつも、結婚・出産・育児・介護など、仕事との両立が困難といったような様々な悩みを持っているのが現状です。

日本医師会は厚生労働省からの委託を受け、日本医師会女性医師支援センターを通じ、各種の事業により女性医師の活躍を支援しています。「日本医師会女性医師バンク」（平成19年[2007]1月30日開設）による就業継続、復帰支援（再研修を含む）をはじめとして、都道府県医師会等との共催により、「女子医学生、研修医等をサポートするための会」等の講習会を開催し、啓発活動に努めている他、女性医師の相談窓口の設置促進や育児中の医師の学習機会の確保を目的として、各医師会が主催する講習会等への託児サービス併設の促進・補助を行っています。

また、薬剤師会においては「日本女性薬剤師会」が全国の30都道府県の薬局勤務、薬局経営者や病院などの医療機関他行政等に勤務する女性薬剤師の会員で構成されています。日本における薬剤師数の6割強を女性が占めている現在、薬剤師会における男女共同参画の推進は我々の歯科医師会より進んでいるように思われます。主な活動は「一生続けて働ける社会」をキーワードにして働く環境調査、保育所の充実、介護問題についての提言、ドメスチックバイオレンス問題等の解決改善につとめ、女性薬剤師が活躍できる場への積極的働きかけと参加実現、未就業薬剤師や家庭の事情等で研修に参加出来ない薬剤師のために在宅学習が出来る「診療ガイドライン・薬剤コース」を設け、冊子の発行、専門医によるスクーリングを実施しています。

今回私は、医師会や薬剤師会の活動を参考に、今後の女性小児歯科医の支援の方向性や具体策を考えてみたいと思っています。

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル1 生涯小児歯科医であるために 一より専門性を究めよう！—

3. 女性小児歯科医委員会から小児歯科学会への提言

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野

仲野道代



■ 略歴

1987年4月 広島大学歯学部 入学
1993年3月 広島大学歯学部 卒業
1993年4月 大阪大学歯学部附属病院小児歯科 研修医
1995年2月 大阪大学歯学部附属病院小児歯科 医員
2002年10月 大阪大学歯学部附属病院小児歯科 助手
2003年12月 ニューヨーク州立大学バッファロー校 博士研究員
2005年9月 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室 助手
2007年4月 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室 助教
2008年7月 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室 准教授
2011年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野 教授

女性小児歯科医委員会では、女性が生涯にわたり仕事を続けていけるために、Specialistの育成、Skill-UP（技術・能力向上）およびSocial（親睦・社会活動）の3つのSを掲げ、次世代育成のためにも積極的にサポートしていくことを目的に平成22年に組織されました。そして、10名のメンバーを中心に、さらに現在では、ネットワークの強化のため全国に女性小児歯科委員会連絡協議会を立ち上げ、女性の視点から、これら3Sを行っていく上での問題点の検討を重ねてきました。

小児歯科学会の会員は、若い世代では女性がその半数以上を占めていますが、その後の世代では、女性の占める割合は少なくなっています。小児歯科学会における今後の人材育成を考える上では、女性の小児歯科医が少しでも長くキャリアを続けることができるように支援することが必要であるといえます。また、そのためには、女性ならではの種々の条件をクリアできるように、小児歯科学会として、女性の復職支援をはじめとするプログラムを構築することが求められます。また、優れた女性小児歯科医が、生涯を通じて活躍できるようにするために、女性ならではの事情を鑑みた専門医更新制度の改訂を図ることが必要であると思われます。

今回のセミナーでは、これまでの女性小児歯科委員会における議論をもとに作り上げた小児歯科学会への提言を示させていただきます。この後のグループ討議における話題としてご理解いただければ幸いです。

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル2 親の気持ちのわかる歯科医になろう

1. 乳幼児期からのスタート

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野

長谷川 大子



■ 略歴

1994年 長崎大学歯学部卒業
鹿児島大学歯学部小児歯科学講座 医員（研修医）
1996年 鹿児島大学歯学部小児歯科学講座 研究生
1997年 鹿児島大学歯学部小児歯科学講座 助手
2004年 鹿児島大学医歯学総合研究科小児歯科学分野 助教

日本小児歯科学会専門医指導医

はじめて小児歯科を訪れる子どもたちの年齢は様々ですが、ほとんどの場合は保護者と共に来院されます。小児歯科の臨床においては、治療やその後の管理の対象である子どもたちはもちろんですが、保護者とのコミュニケーションは医療者側と患者側の信頼関係を確立する上でとても重要です。コミュニケーションを円滑に図るためには、保護者すなわち親の気持ちを理解することが必要です。

“生まれてきてくれてありがとう”、この言葉は絵本にもなっていますが、親になった瞬間から自然に湧いてくる感情です。私は自分自身や周囲の方の経験を通して、ひとりの赤ちゃんが十月十日を何事もなくお母さんのお腹の中で過ごし、無事に誕生することはとても奇跡的なことだと感じています。“生まれてきてくれてありがとう”、そんな思いを抱きながら、親は生まれてきた子どもに愛情をたっぷり注いで育てています。親はだれでも自分の子どもにはつらい思いをさせたくないと思っています。私たち小児歯科医はそんなお子さんたちと向き合っているのです。

治療や保健指導の際に、どのような声かけや指導をしているのでしょうか。「甘いものはむし歯になりやすいからやめましょう」、「歯みがきは毎日してください」と小児歯科医なら誰でも伝えることだと思います。私もたくさんの方に伝えてきました。しかし、子育てをする中で、無理な時もあるということをもつて経験しました。それなら無理な時はどうしたらいいか、お母さんやお父さんの話をよく聴き、子どもたちの生活背景やご両親の気持ちを受け止めて一緒に改善策を考えるようにしています。まずは相手の立場に立って共感的に理解するように努めることが大切ではないでしょうか。

今回は、子どもをもつ親として、また小児歯科医として、親の気持ちを少しでも理解していただけるように経験を交えながらお話ししたいと思います。

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル2 親の気持ちのわかる歯科医になろう

2. もう一人の育ての親

北海道医療大学口腔構造・機能発育学系小児歯科学講座

庄内こどもの歯科

庄内 喜久子



■ 略歴

1978年4月	日本歯科大学入学	2006年9月	日本小児歯科学会認定医専門医取得
1984年3月	日本歯科大学卒業	2008年4月	北海道立衛生士学院非常勤講師
1993年3月	庄内こどもの歯科開業	2010年4月	日本小児歯科学会北日本地方会常任理事
2000年6月	日本小児歯科学会認定医取得		札幌歯科学院専門学校非常勤講師
2002年4月	全国小児歯科医開業医会理事	2011年4月	日本小児歯科学会女性歯科医委員会連絡協議会
2003年10月	日本障害者歯科学会障害者認定医取得	10月	日本小児歯科学会北日本地方会大会長
2005年4月	北海道社会保険診療報酬請求書審査員	2012年4月	北海道医療大学口腔構造・機能発育学系小児歯科学非常勤講師
	北海道小児歯科医会会長		
	札幌歯科医師会西支部役員		

乳児期から小児歯科に通院することにより、小児および保護者との密な関係を築けることとなり、両者の僅かな変化にも対応することが可能となります。口腔は、歯の萌出により吸啜から咀嚼へと成長し、栄養摂取は母乳、離乳食そして普通食へと変化していきます。小児の情動は著しく分化し、徐々に自我に目覚め、コミュニケーションが可能となり、様々な感情を持つようになるため、その対応は刻々と変化していきます。一方、保護者は子供の成長を喜びながらも、忙しい日々を過ごし、いわゆる育児ノイローゼなど精神状態が不安定になることもあります。そのため、小児はもちろんのこと保護者の精神状態も考慮した指導や管理が必要となります。

1970年代の小児の肥満率は3%でしたが、1990年以降は約10%となり、その中でも高度肥満（標準体重+50%超）の割合が高くなっています。血清コレステロール値が米国の小児よりも高いといわれ、小児におけるメタボリックシンドームの診断基準がつくられ、糖尿病の早期発見を目的として、小学校の健康診断で尿糖検査が行われています。対照的に、太ると将来苦勞するということで瘦身志向が学童期にもみられ、貧血や骨粗鬆症の小児も増加しています。

早くから小児歯科に通院することで、生後間もない頃から口腔管理を行い卒乳や離乳食などの食生活指導や食育指導などにより、肥満や痩せすぎなど小児の生活習慣病の予防や改善の手助けができます。また、早い時期から経時的に咬合関係や顎運動等を記録していくことで、吸指癖や舌突出癖などの悪習癖およびそれに伴う歯列・咬合の変化や、う蝕の早期対応が可能となり、正常な咬合関係へ誘導することができます。

本テーブルクリニックでは小児歯科医として、小児の口腔を管理することにより正しい成長発育へ導くことの重要性を、保護者の気持ちを配慮したうえで、もう一人の育ての親として皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

学術委員会企画テーブルセミナー テーマ3

テーブル2 親の気持ちのわかる歯科医になろう

3. 思春期を考える

ルミエール小児歯科

吉田 敦子



■略歴

昭和54年 日本歯科大学卒業
昭和54年 日本歯科大学 小児歯科学教室助手
昭和58年 大谷歯科医院 勤務
昭和63年 ルミエール小児歯科 開設

誰もが思春期を通して大人になります。

思春期は子ども時代の総決算であり、大人になるための最終的な点検、調整、試行の時でもあります。小さいときから診てきた子供が中学生になり、久しぶりに診療室に来院された時そのあまりの変貌ぶりに、同じ子供かと思うほど驚くことが多々あります。一人で堂々と入ってきた子に思わず「お父様お母様は、お元気ですか？」などとはそよそしく言葉をかけてしまうこともあります。お母さんの後ろに隠れるように診療室に入ってきた時がなつかしく思い出されます。

一方この時期思春期の子供を支える親は、自身もまた中年期に入り色々な問題や不安の種が芽生えてきます。また親子関係にも大きな変化がでてきます。

思春期の子供の特性を知り、その親、家庭環境の変化を知ることは、この時期の口腔成育支援に重要なことと考えます。

この時期の口腔の問題としては、歯肉炎や思春期性の歯周病、顎関節症また第2大臼歯の齶蝕や歯頸部齶蝕、歯列不正などが挙げられます。しかし基本は、乳幼児期の口腔成育と同じで生活全般からの支援です。口腔の問題の対応だけにとらわれるのではなく、家庭環境を思いやり、個々の生活力や心身の発育段階に充分注意を払った細やかな対応が必要だと思えます。

この機会に当院で思春期の子供を持つご父兄に自身のことや、子供との関係、この時期に歯科医に望むことなどについてアンケートを行いました。このアンケートからは、思春期の子供を持つ親特有の状況を垣間見ることができました。これにより継続して関わってきた子供だけではなく、この時期に初めて来院された子供へのより適切な接し方、支援の仕方を考える参考となりました。

私たち小児歯科医は、家族とともに、子どもの成長に継続して関わっています。思春期を迎えた子供一人ひとりが思春期を生き生きと乗り越え大人として自立していけるよう、小児歯科医として、また成長を見守り応援している身近な大人としてどのように接するべきかを提案したいと思えます。